

令和 8 年度第 1 回長浜市地域包括支援センター運営協議会
会議録(要点録)

日時:令和 8 年 7 月 9 日(木)午後 2 時～

会場:長浜市役所 5 階 5-B 会議室

1. 出席者

①出席委員(順不同)

森上会長、香水委員、橋本牧委員、小倉 委員、岩根委員、橋本文委員、西川委員、
清水委員、喜多委員、

②欠席委員(順不同)

堀口委員、小林委員、田中委員

③地域包括支援センター

長田主任ケアマネジャー、川崎所長、北川所長、丸岡所長、沢田所長

④生活支援コーディネーター

福本副主幹

⑤出席職員

健康福祉部 山口部長、

長寿推進課 河瀬課長、星野課長代理、木下副参事、佐野係長、川瀬主事

2. 傍聴者

なし

次第２： 令和７年度長浜市地域包括支援センター実績報告

事務局	資料に基づき令和７年度実績状況について報告
会長	ただいまの報告について、ご質問、ご意見があればお願いします。
委員	「主任 CM 支援 困難ケース」「支援困難ケース」の違いはどのような違いがあるのか教えていただきたい。
事務局	「主任 CM 支援 困難ケース」は、利用するサービスや関わる制度・関係者が多く、それらの調整・連携に手間がかかるなど複雑で対応が難しいとされるケース。一方で「支援困難ケース」とは、本人や困りごとが介護保険サービスの対象外などの理由から、介護保険の仕組みでは支援できないが何らかの支援が必要となるケースです。
委員	その場合、その後のフォローはどのようにされているのか。
事務局	例えば身内がいない認知症のある人がいた場合、定期的に訪問し医療に繋げていきます。キーパーソンとなる人を見つけ支援をおこないます。支援者等に繋げた後は支援をお任せし、見守っていく。
委員	自己評価について、包括的継続的ケアマネジメント業務の部分が他と比べて低く、他の項目は 100%に近い数値となっているが、その意味合いはどの根拠指標をもって評価されているのか。あくまで自己評価として評価しているのか教えていただきたい。
事務局	各項目に関して「出来ている・出来ていない」といったチェックとなっており、各センターの自己評価として行っています。この結果を踏まえて、長寿推進課でも共有し、評価の低い部分について高くなるように各センターと検討してまいります。

次第3：令和8年度長浜市地域包括支援センター取り組み内容

事務局 各センター	長浜市の取り組み方針 各センター取り組み状況報告 資料に基づき説明
委員長	窓口対応時間について 9：00～16：45となりましたが、時間外に突発的に何か相談したいときの対応はどうなっているのか。留守番電話のような形になっているのか。
木余西地域 包括支援セ ンター	当番制で対応している。当番が携帯電話を持ち転送される。24時間対応になる。
湖北高月地 域包括支援 センター	留守番電話対応。 電話を掛けると、時間外対応の連絡先がアナウンスされ、緊急の場合は対応可能な連絡先を伝えている。
会長	今日の会議でも民生委員という言葉が多くありましたが、民生委員の担い手が問題になっているが、湖北地域においてはどのような状態でしょうか。
委員	市内全体で325名定員の内、4名程決まっていない状態です。
会長	民生委員をされている人と話した時、その方の地域が285軒、高齢世帯が30軒あり、一人に対応しており、自分の時間をとることが難しいとおっしゃっていた。私の地域では200軒程の規模で、民生委員が不在となっている。担い手がなかなかいない状態です。これからの行政の課題だと感じています。
委員	認知症のある人にやさしいお店について、どのような要件があるのか。
事務局	長浜市が実施している登録事業で、認知症サポーター養成講座を受講した方がいるお店となっています。何か特別なことをしていただく必要はなく、認知症のある人に、やさしくそっと手助けをしていただけるお店となっています。

次第４：第１０期ゴールドプラン策定について

会長	続いて第１０期ゴールドプラン策定について説明をお願いします。
事務局	次第４について当日資料（高齢者実態調査抜粋資料）の説明
委員	設問の中で、「何かあったときに相談する相手はどなたですか」の問いに、自治会、町内会、老人クラブが減り、相手がいないが増えていることについて気になった。コロナ以降、確かに地域のコミュニティは弱くなっていると感じているが、どのような分析をされているのか。
事務局	現時点で回答を持ち合わせていないが、今後のことを考えて行く中で大変重要な部分かと思います。高齢者保健福祉審議会でも内容を深めていき共有してまいります。
会長	設問内容について「何かあった時」ではなくもう少し具体的な聞き方はどうか。
事務局	今後の参考にしていきたいと思います。
会長	他に意見がなければ、協議事項は終了しましたが、最後に皆様から地域包括支援センターに対して、求める役割やエールを含めてございましたらお願いいたします。
委員	湖北病院の建て替えについて、当初より縮小の計画が出されたが、包括センターの役割や施設をしっかりと残してほしい。病院と併設しているため、連携もしっかりとしていて安心出来るのでお願いしたい。
委員	身寄りのない方が多くなってくる。後見人制度もあるが、ハードルが高い。行政として具体的にどのような対応をしているのか。
事務局	第１０期ゴールドプランにも課題として取り上げていく内容と考えています。具体的な支援としては、センターや成年後見・権利擁護センター、長寿推進課その他いろんな機関と連携し、ケース毎に対応しています。
委員	木之本余呉西浅井地域包括支援センターは病院内にあり、連携がしやすいことを実感している。薬の管理が難しくなっている人に対して、残薬状況など薬剤師が訪問して指導している。その方のフォローについて包括支援センターにも相談している。これからも引き続き連携していきたいので、よろしくお願いします。

委員	包括支援センターは大変ボリューム多い業務をこなしていると感じています。介護支援専門員として、これからも高齢者が増えていき、支援者の担い手がなかなか増えない中で、縦割りの意識がどちらかというと強いと感じています。業務量の多さも影響しているのではないかと考えています。 横のつながりで他の支援事業所はどのような対応をしているのかと考える余裕もないのではないかと思います。業務の軽減に繋がる事も考えていく必要があると考えています。
委員	生活支援団体で、高齢者の生活に関わるボランティアをしているが、ごみ出しや買い物支援を行っているが、包括やケアマネジャーと連携して具体的な支援について共有が可能なら連携してしたいと思います。
委員	民生委員で長浜駅周辺の担当地域となっているが、包括支援センターにはケアマネジャーとの懇談会や高齢者虐待の出前講座をお願いしています。いろいろお世話になっているが、「民生委員としても何かあったら包括支援センター」と周知しているところ。これからもお世話になりますが、よろしくお願いします。
委員	成年後見・権利擁護センターとして、身寄りのない高齢者、家族関係が複雑の方への支援を行っているが、包括から繋いでもらうケースも多い。包括支援センターに間に入ってもらうことで、点での支援がチーム支援へと繋がっていると実感しています。ハラスメント支援についても利用者からのハラスメントも起こりえます。そんなときでも包括支援センターが間に入っていただくこともあり、大変助かっています。これからもお願いします。
会長	皆様貴重な意見ありがとうございます。本日の議事はこれで終了とします。次回の会議については12月に予定しており、進捗状況等協議いただきます。ご出席のほどよろしくお願いします。